

平成 21 年度 河川整備基金助成事業

水防災拠点としての「鎮守の森」  
「水塚」の保全に関する調査研究  
報 告 書

平成 22 年 3 月

彩 の 川 研 究 会

## はじめに

この報告書は、平成 21 年度の彩の川研究会が実施した『水防災拠点としての「鎮守の森」「水塚」の保全に関する調査研究』の結果をとりまとめたものである。なお、本調査は平成 20 年度から引き続き調査研究を行ったもので、本報告書はこの 2 年間の成果をとりまとめたものである。

「鎮守の森」は、その土地本来の樹木によるふるさとの森であり、地域の守護神を祀った社寺林である。埼玉県東部や荒川沿川の低平な洪水氾濫地帯では、私的な水防災施設としての「水塚」に対して、「鎮守の森」は公的な水防災拠点としての機能を有していたのではないかと考えられる。

戦後の高度経済成長に伴う人口集中による都市化の中で、「鎮守の森」は激減の一途を辿った。彩の川研究会は、埼玉県内における過去の分布、現存地について調査し、その機能を検証して、保存と復元再生策を研究することにより、地域の水防災拠点の構築ならびに環境の整備に資することを目的に、本調査研究を実施したものである。

当研究会は、埼玉県在住の（社）日本河川協会会員で構成されており、知識と経験豊富な会員の能力を活用して、利根川・荒川の氾濫原・低平地を対象に、県土整備事務所所管区域をベースに 4 つの班を編制して調査にあたった。

平成 20 年度調査では、文献・資料、聞き取りおよび現地調査を実施して、洪水時に避難場所となった社寺の記録を文献・資料により確認するとともに、社寺の実態を調査票にとりまとめた。この結果、「鎮守の森」が過去の大水害時に水防災拠点として機能していたことが確認された。

平成 21 年度調査においては「鎮守の森」についてさらに実態について調査を進めるとともに、私的な水防災施設である「水塚」に関する調査も併せて行い、これらの保全ならびに復元の可能性、その方策について考察した。

大規模な洪水氾濫被害に備えた先人の知恵を今後にかすべく、本報告書が地域の水防災拠点の構築ならびに環境の整備に資することができれば幸いである。

彩の川研究会会長 尾崎 邦夫

# 水防災拠点としての「鎮守の森」「水塚」の保全に関する調査研究

## 目 次

第1章 調査研究概要	1
1-1. 調査研究の目的	1
1-2. 調査研究の内容	1
1-3. 調査実施体制	2
1-4. 調査の方法	2
第2章 鎮守の森調査結果の概要	5
2-1. 洪水氾濫時に鎮守の森へ避難した実績記録	5
2-2. 鎮守の森へ避難した洪水	10
2-3. その他の氾濫原の社寺	25
第3章 埼玉平野の洪水氾濫といくつかの「鎮守の森」の特徴	27
3-1. 埼玉平野の広域にわたる洪水氾濫	27
3-2. 大聖寺周辺の地形と洪水	43
3-3. 『大水記』と久下戸氷川神社	50
3-4. 吉見町の稲荷神社	56
3-5. 旧妻沼町の洪水被害と大野の稲荷神社・日向の長井神社	57
3-6. 本庄市堀田の諏訪神社と22年9月洪水	60
3-7. 上里町・明治43年の大洪水と安盛寺	67
3-8. 洪水時避難場所となった放光寺	74
第4章 水塚調査結果の概要	77
4-1. 水塚の分布	77
4-2. 洪水氾濫時の船	80
第5章 利根川・荒川流域の「水塚」の特徴	85
5-1. 利根川中流域（羽生・大利根・北川辺）の水塚	85
5-2. 中川低地（幸手・杉戸・春日部）の水塚	105
5-3. 荒川中流域（吉見・川島）の水塚	108
5-4. 荒川下流域（川越・ふじみ野・富士見・志木・朝霞・和光）の水塚	114

第6章 調査結果のまとめ	127
6-1. 「鎮守の森」「水塚」をどう活かすか（アンケート）	127
6-2. 「鎮守の森」「水塚」の保全・活用の可能性との方策 についての考察	130
<資料>アンケート・質問事項別の集計結果	132
資料編 鎮守の森・水塚調査票	141
資-1. さいたま・越谷	141
資-2. 朝霞・川越・飯能・東松山	215
資-3. 本庄・熊谷・北本	271
資-4. 行田・杉戸	290

●編集委員会

この報告書の編集は、彩の川研究会・企画部のメンバーが編集委員会を開催してとりまとめた。水防災拠点としての「鎮守の森」「水塚」の保全に関する調査研究の報告書として、今後の調査研究に役立つことができれば幸いである。

- ・彩の川研究会・企画部・編集委員会メンバー（アイウエオ順）  
木内勝司、桑島弘治、小林寿朗、田中長光、前田猛彦、横倉輝夫

水防災拠点としての「鎮守の森」「水塚」  
の保全に関する調査研究報告書

平成 22 年 3 月発行

(社) 日本河川協会 彩の川研究会

問合せ・事務局

TEL 048-588-4464

〒360-0243 埼玉県熊谷市間々田 243

※この調査は河川整備基金の助成で行った。